

2 新聞活用の利点

経済協力開発機構（OECD）の「学力到達度調査（PISA）」（2009）において、新聞の閲覧頻度と学力に関する相関関係を示した興味深い調査があります。

	新聞の閲覧頻度（％）					総合読解力得点				
	ほとんどない	まったくか、 年に2〜3回	月に1回ぐら	月に数回	週に数回	ほとんどない	まったくか、 年に2〜3回	月に1回ぐら	月に数回	週に数回
日本	21.7	9.2	11.5	19.7	37.8	492	517	524	533	530
フィンランド	2.9	6.9	14.6	28.5	46.3	493	520	530	533	545

（OECD の PISA ホームページより作成）

この結果から、新聞を読んでいる子どもは学力（読解力）が高いということが分かります。学力のトップであったフィンランドでも同じような結果が得られています。フィンランドでは閲覧頻度が少ない生徒がほとんどおらず、反対に頻度の高い生徒が多くいることがうかがえます。

また、日本新聞教育文化財団（2011年度より日本新聞協会に統合）が NIE 実践校を対象に行った効果測定調査によると、新聞活用の実践を行うことによって、およそ8割の児童生徒が「新聞を進んで読むようになった」、6割以上で「記事について友達や家族と話すようになった」「自分で調べる態度が身についた」「生き生きと学習をするようになった」と成長が報告されています。おそらくそのような様々な面での成長が総合して、「読解力」の向上につながっているのではないのでしょうか。

私もこれまで勤務した小学校で NIE 実践指定校を3年間経験しました。子どもたちと新聞を活用した授業を行う中で、効果測定で報告された効果を肌で感じたものでした。そして、それだけではなく、児童生徒の学習態度も向上すると実感しています。以前、担任した学級で発達障害をもつ児童が多く在籍していたことがありました。授業中の私語が多く、ほとんど集中できずになかなか授業が成り立たなかったり、学力も低いためにほとんど学習内容を理解できていないということもありました。その児童にも新聞を活用し漢字探しや気に入った写真探しなどを行っていきました。すると、新聞を夢中でめくり、知っている漢字や気に入った写真を探すようになりました。

これらのことから、新聞は教育における「総合的な教材」といえるのではないでしょう
か。その理由の1つは、効果測定の結果からもわかるように、新聞活用の実践により児童生
徒の能力が多面的に伸びているという点です。文章を書いたり読んだりする力はもとより、
コミュニケーション力、社会性、そして学習への意欲の向上も報告されています。これは後
述しますが、新聞は児童生徒に今の社会をリアルに示すものであり、文章としても価値のあ
るものだからといえます。

そしてもう1つは、新聞は同じ記事でも指導する教師によって料理の仕方が様々あるとい
う点です。東日本大震災では地震についての関連記事が新聞各紙に毎日掲載されています。
それらの記事を使って、ある教師は被災地でがんばっている子どもたちの様子を児童生徒に
示し、自分たちの生き方を考える授業を行うかもしれません。また、漁業関係者が大変な打
撃を受けた記事を取り上げて、社会科水産業の学習を深化補充した指導をするかもしれませ
ん。さらに、地震の被害者の体験談を取り上げた記事を取り上げて、防災について考える授
業を行うかもしれません。このように同じ記事でも教師の考えや授業のねらいに応じて取り
上げ方を工夫できることが、新聞の大きな魅力だと考えています。

以前参加した、新聞活用を取り上げたシンポジウムで、パネリストの先生の一人が「新聞
の活用は教科書からの離陸だ」と言いました。教科書を用いた学習は無論大切ですが、教科
書に収まらない児童生徒の学びを保証する意味で、新聞は今後大きな役割を担っていくと確
信しています。